

The Learner

Doshisha International Academy Elementary School

November
ISSUE



November 2024
Volume 150

「できない」を「できる」ように

約 30 年近く購読してきた月刊の音楽教育雑誌が 8 月発売号を最後に、季刊化されることになりました。思えば新卒 2 年目は音楽専科でしたので、音楽の指導法や楽譜、日本の音楽教育の動向といった情報を手に入れようと、毎月書店に足を運んだことを覚えています。

それから 30 年、世の中の情勢は大きく変わりました。特に音楽の分野では、インターネットで視聴したい音楽が手に入りますし、楽譜もネット経由で購入できます。書籍も書店まで行かなくても読める時代になりました。教科の指導法などはネットで検索すれば、様々な学校での実践例が出てきます。そのような意味では、もはや情報収集の手段としては、紙の本の価値は低くなっているのかもしれない。(たとえそうでも、私は紙の本を選ぶことが多いです。)

では、子どもたちを教育していく上で変わらないものは何でしょうか。それは「できない」ことを「できるようにする」ことであると思います。こう書きますと、「教師主導型の旧態依然の教育だ」と言われるのかもしれませんが。確かに私が受けた教育は、「とにかく反復練習」的な根性論が幅を利かせていた時期と思います。しかしそのような意味ではなく、教師が子どもの「できない」原因を分析し、適切な指導によって、出来るだけ子どもの負担感を味わわせないようにしつつ「できる」ようにすることを意味します。

私は音楽科を研究教科としておりました(現在でも)ので、「すべての子どもがリコーダーのタンギングをできるようにするには、あるいは音高(ピッチ)を正確に歌うにはどう指導すればよいか」、また学級担任をしているときには「全員が割合の問題を理解するにはどのように指導すればよいか」などということを常に考えながら授業を行っていました。

中でもリコーダーは、3 年生で初めて手にしたときは喜んで吹いていますが、タンギングや指遣いを習った途

端できない児童はやる気を失い、チャンバラの道具と化します。「できたら楽しい。できなかったらつまらない。」当然のことだと思いますし、音楽ならなおさらそうだと思います。

そこで、教科書のタンギングのページを見てみましょう。そこには「トゥートゥーというつもりで吹いてみましょう」といった説明がされています。しかしこの説明だけでは不十分で、教師がさらに詳細に助言する必要があります。

子どもは「トゥートゥー」の発音はいとも簡単にできます。が、リコーダーをくわえた瞬間「トゥートゥーができなくなります。なぜでしょうか。それは、吹き口を歯で噛んでしまっているからです。噛んでしまうと、リコーダーを噛むことに意識が向かってしまい、うまく「トゥートゥー」とならなくなるからです。

多くの児童の場合、吹き口を唇で軽く挟みながら、唇と右手親指でリコーダーを支えて「トゥートゥー」とすることにより、タンギングができるようになりました。(苦手なお子様は一度やってみてください。学校でお尋ねいただいてもかまいません。)

たった一つのことですが、「できる」ようになったとき、子どもは目を輝かせてどんどんやろうとします。これは、他の教科、単元も同じです。

子どもの「できない」状態が「できるように」なったとき、教師としてこの上ない喜びを感じつつ、時々教室にお邪魔して、子どもの「できない」ことを 1 つずつ克服させていただけたらと思います。



教頭 風間 寛



キリスト教教育

11月：感謝 November：Gratitude

聖書：「あなたがたの信仰の試練は、火で精錬されながらも朽ちるほかない金よりはるかに尊く、イエス・キリストが現れるときに、称賛と栄光と誉とをもたらすのです。」

ペトロの手紙一 1章7節（聖書協会共同訳）

「…ところが、まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。」

ルカによる福音書 15章20節（聖書協会共同訳）

9月の終わりに6年生の修学旅行があり、引率教員の一人として筆者も同行させていただきました。色々な場所を見学または体験しましたが、今回は特に、ここ数年熊本で必ず訪れる二つの施設についてお伝えしたいと思います。

一つ目は日本キリスト教団熊本草葉町教会です。ここは草創期にまだ私塾同然だった同志社英学校を、名実共に学校・大学へと発展させるのに貢献した、通称「熊本バンド」の青年たちが多く集った教会です。特に第8代目の同志社総長・学長となった海老名弾正は有名です。

礼拝堂の壁には彼らが花岡山に結集し、固いキリスト教信仰に根差した国の改革を決意して署名した「奉教趣意書」のリアルな複製画が掲げられています。リアルと申し上げたのは、後に家族や親族の猛烈な反対に遭い、座敷牢なり泣き落としなりに棄教した数名のメンバーの名前が傍線で消されているのを見てとれるからです。まさに「火で精錬される」かの如き、信仰の試練を受けて同志社にやって来たのが熊本バンドと言えるでしょう。

二つ目は慈恵病院です。この病院の取り組みの一つ「こうのとりのゆりかご」へ、本校は毎年「おにぎり献金」を寄付しています。「どうしても赤ちゃんを育てられないと悩む女性が、最終的な問題解決として赤ちゃんを預ける所があれば、母子共に救われると考え開設しました。」（慈恵病院 HP より抜粋）というこの場所で養護教諭として働かれるスタッフの方によると、赤ちゃんを預けに来た女性になぜここへ来ることになったのか、などと細かい事情を聞き出すことは一切しないそうです。本人が希望すれば匿名で赤ちゃんを預かり、手厚く保護します。この慈愛に満ちた病院の対応は、まさに「慈恵」という名に相応しいもので、お世話をする相手に何のペナルティも、報酬も要求しないのです。これはまさに「帰って来た息子を無条件で受け入れる父親」の愛に似ています。

愛するわが子を、愛するがゆえに厳しく鍛え抜くのは父なる神の愛ですが、失敗し打ちひしがれて戻って来たわが子を、しっかりと抱き締めて赦すのも父なる神の愛です。その両極を改めて強く感じた、この度の修学旅行でした。

Christian Education Committee チャプレン 石川眞弓



<お知らせ>

・11月1日（金）収穫感謝礼拝

米一合を持ち寄って、日頃神さまから受けている多くの恵みに感謝する礼拝を行います。集まった米は日本バプテスト京都教会内「京都寄り添いネット」と大阪釜ヶ崎「いこいの家」を通して、生活に困窮しておられる方々の元へ届けられます。

・11月2日（土）きずな祭「聖書の会」ブース

Music1 前の廊下にて、「聖書の会」のブースが設けられます。今年度は昨年度に引き続き同志社・新島かるた（本校卒業生の原画が元になった製品です）や、イラスト・クラフトクラブ部員の児童らが制作し寄付をした作品などが、並びます。

収益は全て、「おにぎり献金」の一部となります。

・11月12日（火）おにぎり献金

・国内：岩手キリスト教学園認定こども園宮古ひかり、福島県の若松聖愛幼稚園、熊本県の慈恵病院「こうのとりのゆりかご」、北陸学院キリスト教センター（石川県能登半島地震支援金口）

・海外：日本ユニセフ協会「ウクライナ緊急募金」・「シリア緊急募金」・「ガザ人道危機緊急募金」

今年度は上記の施設にお捧げします。ご賛同いただける方は、お子様に献金をお持たせください。

・11月22日（金）クリスマス点灯式



16:30 点灯式礼拝 チャペル（児童・教職員のみ参加）

16:55 点灯式 正門外（児童・教職員・1年生保護者のみ参加）※一部 SG を除き、他学年の保護者に駐車券は出ません。

G3 The growth of children through events — 行事を通じた子ども達の成長(3年生) —

秋学期はどの学校でも行事が多いものですが、DIA3年生でも宿泊学習、スポーツデー、クリスマスページェントとほぼ毎月、大きな行事が続きます。10月下旬までに終えた、宿泊学習とスポーツデーを振り返ってみました。

9月中旬の宿泊学習では、Unit 3 How We Express Ourselves「人は個性を様々な方法で表現する。」の探究のために奈良県川上村にある「匠の聚(たくみのむら)」に行きました。施設内に在住されているアーティストの先生方から、墨絵、写真、木工クラフト等を教えていただき、本物のアート作品を見せていただきながら、自己表現の手法や考え方の切り口を学んでいきました。同時に、人の話を聞く時の態度、集団で動く時の個人の責任について強く心に印象付けられた3日間となりました。好奇心旺盛な3年生は、思い立ったらすぐに質問するし、行動に移そうとします。とても活気があり、教室では多くの意見が出され、グループワークでは意見がまとまらなくて困ることもあるぐらいです。よく知っている仲間同士であればいつもの生活態度として許容できますが、自分たちの生活範囲から出た時、それはマナー違反となり、迷惑行為と呼ばれます。説明して下さっている途中で質問したり、自分の興味に気をとられて説明を聞けなかったりして、時には見学先の方から注意を受けることもありました。勿論、普段からこういったことは指導していますが、実際の社会経験がなければ、心に残る教訓として行動に反映されることは難しいです。同じ価値観で、同じ生活を共有している者同士の普段の学校生活では、なかなか体験できないので、子ども達にとっては自らを振り返る機会となりました。この宿泊学習を通して、子ども達の心の中に、社会の中で自分達がどうすれば、みんなが気持ちよく生活できるのか、指標になるものが芽生え、身についたように感じました。



続いて10月下旬に、スポーツデーがありました。6学年が赤青の2チームに分かれ、勝負していきました。それぞれの競技で頑張ることも素晴らしかったのですが、自分たちが属するチームの中で、何ができるのか考え、応援グッズを作った姿には感動しました。クラスフラッグを中心に、手持ちの旗、ボンボン、数人が並んで持つ応援カード、ハチマキ、リストバンド、小物に付けるキーホルダー等、少ない時間と家での時間でクラスの分をすべて作り上げました。応援の掛け声や簡単なダンスまで考え、全員が一致団結して取り組みました。そして、スポーツデー当日には、担任が係の仕事で児童テントを離れていても、みんなで声を掛け合い、3時間も長時間にもかかわらず、自分達だけでトラブルなく充実した時間にできました。全員が同じ目標に向かって気持ちを一つにすることの心の充実感をしっかり体感できたイベントとなりました。

宿泊学習とスポーツデーを通して、3年生は集団の中での言動には責任が伴うこと、協力すれば大きな目標も達成できること、そしてそれらを常に意識して生活していくことがみんなの幸せや楽しい時間になるのだということを学び、生活態度で示せるようになりました。その証拠に、普段の学校生活がとてもメリハリのあるものになりました。休み時間は思い通りにリラックスし、授業が始まったらすっと気持ちを切り替え、教室の雰囲気短時間で切り替わります。行事が続いて気持ちが浮つく期間ではありますが、教員の強い声掛けがなくとも、自発的にそうできるようになってきたことが明らかな成長として見られます。

この上向きの勢いのもと、12月のページェントに向けて練習をしています。一つ一つの行事を乗り越えながら成長してきた3年生が、自分たちの成長を、ページェントの演技やサポートして下さる保護者の方への態度で示すことができるのか、今から期待しています。



からのおしらせ

勤労感謝の日

「勤労をたっぴ、生産を祝い、国民がたがいに感謝しあう」ことを目的に定められた祝日です。

仕事を頑張っている自分に、あの人に、感謝を伝えるこの機会に、たくさん溢れている『仕事』について触れてみませんか。

『よるのあいだに… みんなをささえるはたらく人たち』

ポリー・フェイバー/文 ハリエット・ホプデイ/絵
中井はるの/訳 BL 出版



わたしがパジャマにきがえるころ、ママは、でかける。たいせつな仕事にいくんだ。町のあんぜんをまもる警察官や、たいせつなニュースをつたえるレポーター。わたしがねているよるも、たくさんの人たちがはたらいて、みんなのくらしをささえてくれている。

私たちが生活する中で、なかなか直接目にするものがない、夜間にはたらく人たちの仕事を、子ども目線のやさしい表現で追いかける絵本です。

『おしごとそうだんセンター』 ヨシタケシンスケ/著 集英社



「しごと」ってなんだろう？
地球に不時着した宇宙人がやってきたのは、ちょっと風変わりな職業相談所。宇宙人は相談所のスタッフと一緒に、この星で生きていくこと、働くことの意味について考えはじめる。
誰もが避けて通れない「仕事」の意味を問い直し、明日をちょっと明るくする、すべての子どもと大人のためのヨシタケシンスケ版“ハローワーク”ストーリー！

『なぜ僕らは働くのか-君が幸せになるために考えてほしい大切なこと』 池上彰/監修 学研プラス



“働く”とは？ “生きる”とは？
あなたは子どもたちに伝えることができますか？

仕事、お金、働きがい、AI の進歩、多様性の尊重、人生 100 年時代…。働くうえで考えるべき様々なテーマをマンガと図解で多角的に伝えます。これから社会に出る若者たち、仕事に向き合い悩む大人たちが、未来に明るい希望を持てるように。そんな想いが込められた、温かくて前向きになれる一冊です。

11月の主な行事・予定

11/2	きずな祭 / Kizuna festival
12/22	点灯式 / The lighting ceremony
11/29	創立記念日 / Doshisha Foundation day
1	金 収穫感謝祭/Thanks giving worship service
2	土 きずな祭 / Kizuna festival 新1年生 / Assembly day for New G1 students
3	日 文化の日 / Culture Day
4	月 振替休日 / Substitute holiday for National Holiday
5	火 Unit4(week5) 避難訓練(予備) / Evacuation Drill(Reserve day)
6	水 委員会活動 / Students 'committee
7	木
8	金
9	土
10	日
11	月 Unit4(Buffer week)
12	火
13	水
14	木
15	金
16	土
17	日
18	月 Unit5(week1)
19	火
20	水 クラブ活動 / Club activity
21	木
22	金 点灯式 / The lighting ceremony
23	土 勤労感謝の日 / Labor thanks gibing Day
24	日
25	月 Unit5(week2) 学期報告会
26	火 学期報告会
27	水 学期報告会
28	木 創立記念礼拝 / memorial worship service パープルデイ / Purple Day
29	金 創立記念日 / Doshisha Foundation Day
30	土

12月の主な行事・予定

12/2(月)~6(金)	学期報告会/The term-end reporting meeting
12/6(金)	G3 クリスマスページェント / G3 Christmas Pageant
12/9(月)~ 12/13(金)	SPT カンファレンス(午前授業) / SPT Conference(AM lessons)
12/16(月)~12/18(水)	午前授業 / AM lessons
12/18(水)	終業礼拝 / Closing Ceremony